

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成26年5月
塩尻市（長野県）

全体総括

○計画期間；平成20年11月～平成26年3月（5年5月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

基本計画に基づき、「快適に暮らせるまち 価値あるときを過ごせるまち」を将来像とし、3つの目標「中心市街地のにぎわいの促進」、「街なか居住の推進」、「新たな産業や文化の創出」の達成を目指して各種事業を実施した。

特に主要事業として取り組んだ「市街地再開発事業（大門中央通り地区）」等により図書館、市民交流センター、民間オフィス等を整備し一日あたり約 1,900 人の利用者を迎え、「ウイングロードビル改修事業」により核店舗が撤退した商業ビルを商業と子育て支援施設の複合施設として再整備することにより一日あたり約 3,000 人の利用者を維持している。これらの施設整備により市内だけでなく市外からの来街者を誘導し、中心市街地内の歩行者・自転車通行量の増加に繋げることができた。

また、塩尻駅周辺地区においては、「市街地再開発事業（塩尻駅南地区）」により商業施設を併設した福祉系複合施設の整備、「塩尻駅前観光交流センター整備事業」を実施することで塩尻市の地域ブランドであるワイン等を観光客に情報発信する場の創出ができたばかりでなく、新規事業所の開設による雇用の場の創出も実現した。

しかし、来街者の目的地は特定の施設に集中し周辺の商店街へのシャワー効果を商業者が実感しないなど、来街者の増加が経済的な効果への波及には至っていない。街なか居住の推進に関連する事業においては、「市街地再開発事業（塩尻駅南地区）」、「大門銀座通り地区優良建築物等整備事業」等による高齢者向けの住居系事業は実施されたものの、いくつかの共同住宅供給事業は経済情勢や権利者の意向により実現には至らず、居住人口は計画期間前より減少し、減少傾向への歯止めがかかってはいない。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

全51事業のうち、18事業が完了、22事業が実施中、11事業が未着手となっている。行政が事業主体であるものはおおむね順調に事業が実施できたが、民間等が事業主体であるものは順調に進捗したとはいえない。

歩行者・自転車通行量や事業所数の増加が示すように街なかへの人の流れが戻りつつある。しかし、街なか居住に関しては住居系の事業が一部実施されたものの人口減少へ歯止めをかけるところまで至らず基準値も下回る現状である。

3. 活性化が図られた(図られなかった)要因(塩尻市としての見解)

計画期間には、市街地再開発事業に隣接し相乗効果を見込んでいた商業施設から核店舗が撤退し、活性化への大きな影響が懸念されたが、目的達成に寄与する新規事業を速やかに追加し商業・公益施設として再整備することで負の影響を最小限に留めることができた。

市街地再開発事業において整備した図書館を中核施設とした市民交流センターは従来、中心市街地への来街者ではなかった若い世代や市外からの利用を創出し、歩行者・自転車通行量の増加に貢献した。

塩尻駅周辺の都市機能向上を目指して、市街地再開発事業による商業・福祉・住居複合施設整備、駅前広場改修事業、観光交流センター整備事業を実施した結果、塩尻駅周辺の魅力とにぎわいの向上と雇用の創出をはかることができた。

しかし、にぎわいが拠点施設や商店街でのイベント時に限定され、商店街への恒常的なにぎわいの広がりや経済効果への波及には至っていない。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

行政が行うべきハード事業は概ね実施され、「えんぱーく」、「ウイングロード」等の拠点施設を中心とした一定のにぎわいは達成され、イベント実施時には街全体へ多くの来街者を迎えている。しかし、にぎわいが拠点施設から周辺への広がりが見られずイベント時のにぎわいも一過性であり、個々の商店の売上も増加してはしないと共に空き店舗も減少はしていない。今後はまちづくり会社が先頭となり市・商工会議所・振興公社とともに地元商業者を巻き込み、商業者や市民が活性化を実感できる事業の展開を期待する。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

市民対象調査の結果、以前と比べて中心市街地の魅力は全体的には向上しているものの、来街頻度は変化が少なく来街者の滞在時間は長くないことから回遊性の向上には至っていない。また居住環境も整っている評価の割合も小さいことから中心市街地が抱える個別の課題は解消されていない。

商業経営者調査の結果、概ね半数の商業者は以前と比べて活性化したと考え、ハード事業の実施がまちのにぎわいに効果があったと感じているものの、売上げに関しては大半の商業者は減少または現状維持と回答しており、にぎわいが店の売上げに結びついていないと評価している。

市民対象調査の結果より

<実施概要>

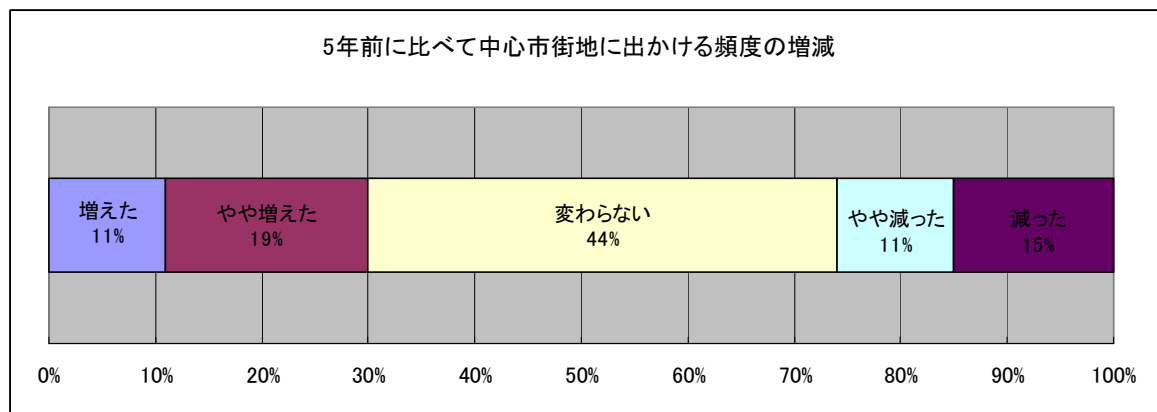
実施期間：平成25年7月30日～8月12日

調査対象：塩尻市に居住する15歳以上80歳未満の男女、2,500人を抽出

実施方法：郵送による配布及び回収

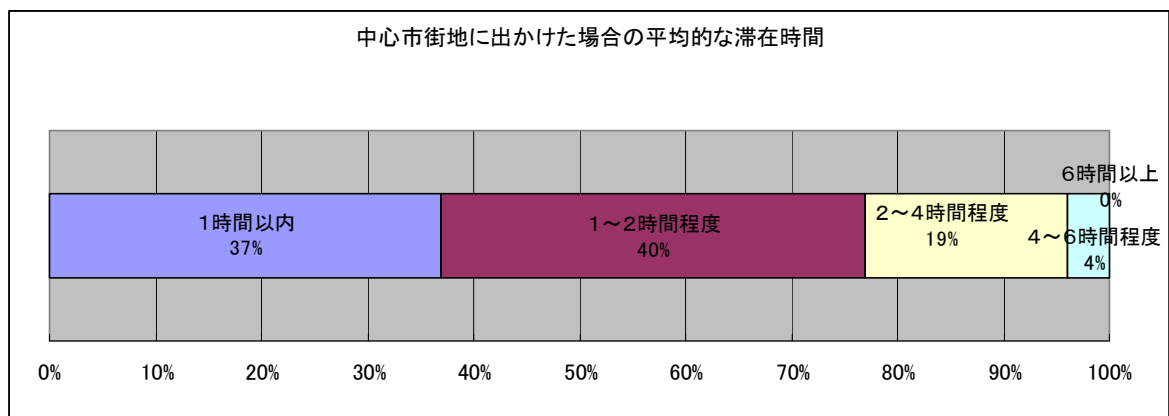
回収率：35.5%（888件）

問1 5年前（平成20年）に比べて中心市街地に出かける頻度の増減



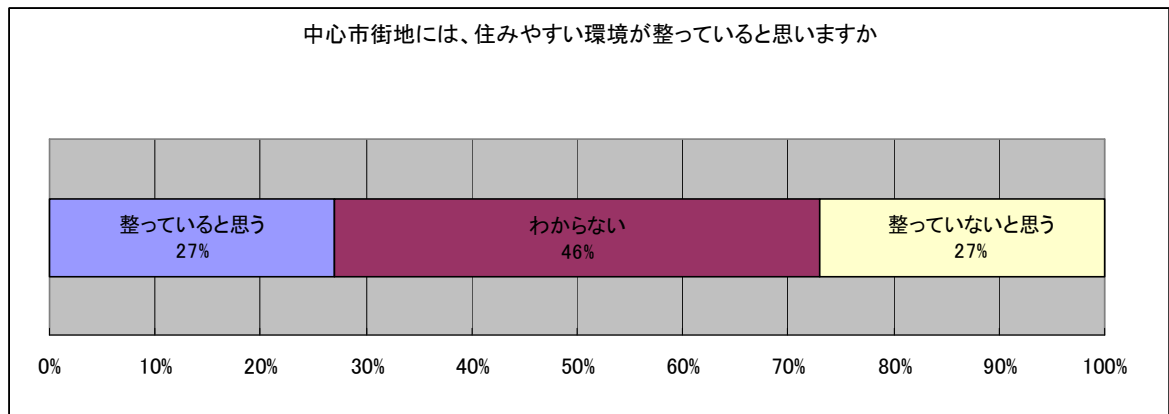
全体では「変わらない」が最も多いが、居住エリア毎に比較すると中心市街地から離れた地域の居住者は「増えた」と回答する割合が高くなっている。

問2 中心市街地に出かけた場合の平均的な滞在時間

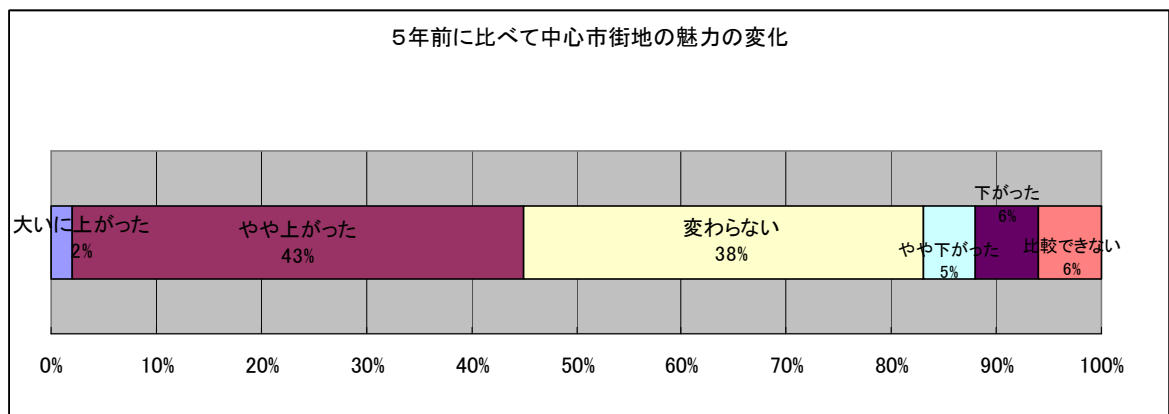


2時間以下の滞在時間の割合が77%を占めていることから、多くの市民は要件を済ませると中心市街地外へ移動し、回遊性の創出には至っていないのが現状である。

問3 中心市街地には、住みやすい環境が整っていると思うか



中心市街地の住環境について「わからない」「整っていないと思う」と評価する割合が73%で住環境は整っているとはいえない状況である。



およそ半数の市民は、中心市街地の魅力は増加したと考えており、減少したと考える市民は約1割であることから、全体として中心市街地の魅力は向上したと評価できる。

商業経営者調査の結果より

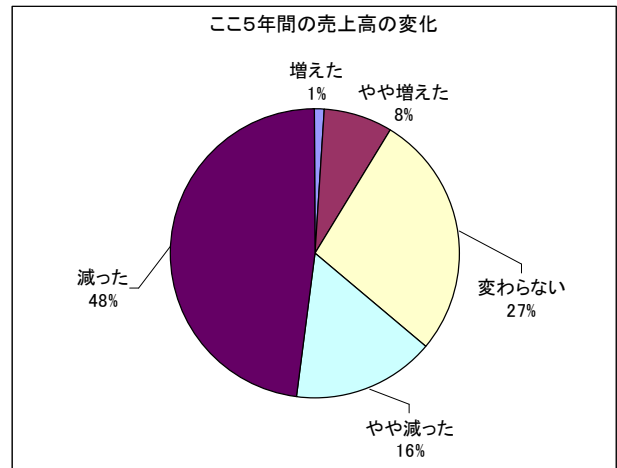
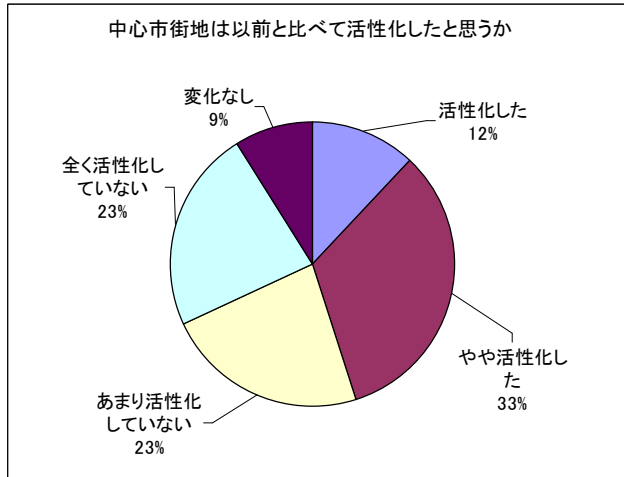
<実施概要>

実施期間：平成25年7月22日～11月1日

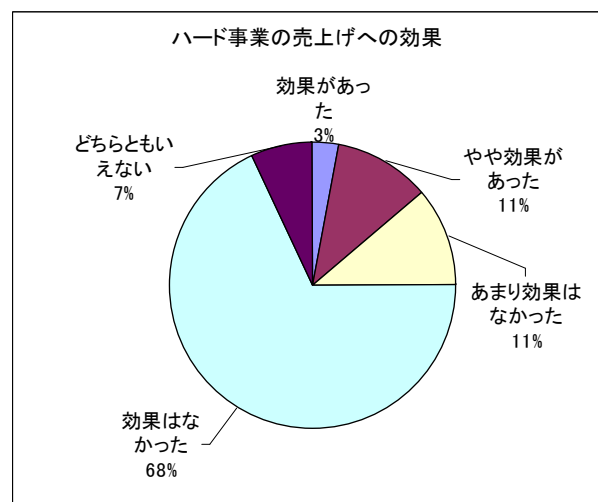
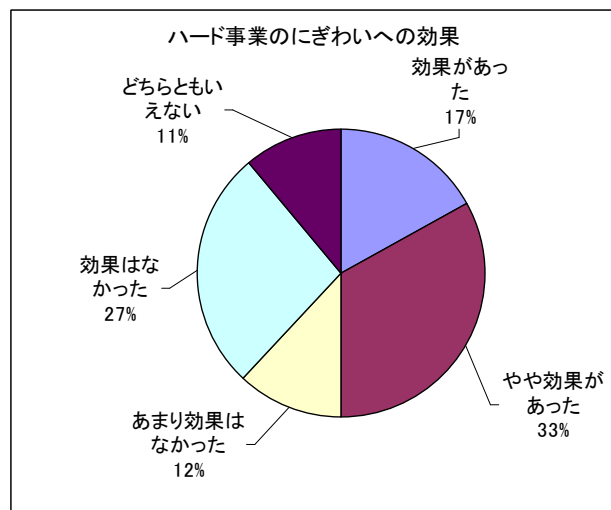
調査対象：中心市街地内に立地する商業経営者

実施方法：面接調査

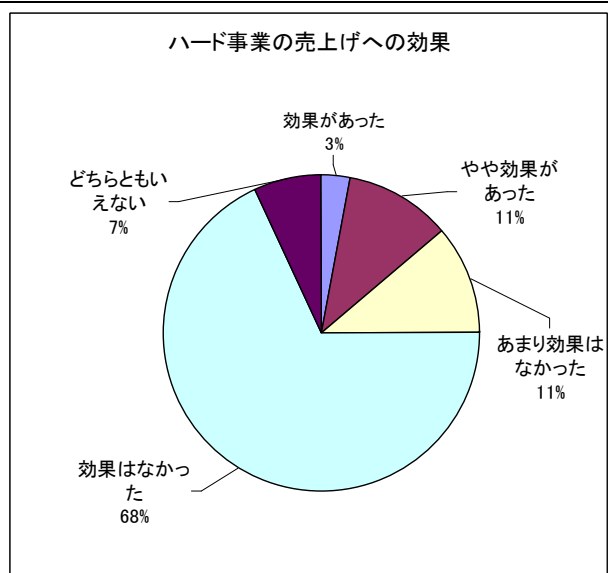
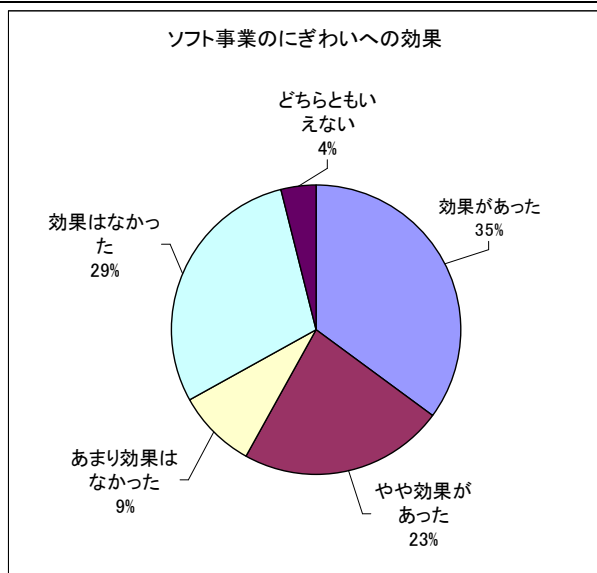
サンプル数：79件



中心市街地は以前と比べて活性化したと評価する割合と活性化していないと評価する割合は同程度であるが、経営者の6割以上は売上げが減少したと評価し、売上げが増加した割合は1割以下である。



中心市街地において実施してきたハード事業については、半数の経営者がにぎわいに効果があったと評価しているものの、売上げに効果があったとの評価は1割あまりに過ぎない。



中心市街地において実施してきたソフト事業については、約6割の経営者がにぎわいに効果があつたと評価しているものの、売上げに効果があつたとの評価は1割あまりに過ぎない。

6. 今後の取組

中心市街地活性化基本計画の事業実施により中心市街地のにぎわいの創出は図られたが、にぎわいの場は局地的で市街地全体への広がりがなく、特に商業面への波及には至っていない。まちなか居住を目的とした事業は高齢者向けの事業を除くと実現しなかったものも多く、人口密度の低下に歯止めがかかっていない。

今後は、商業面での活性化に向けてまちづくり会社を中心に商工会議所等の関係機関と連携し既存店舗の魅力向上や新規参入希望者への支援を行っていく。また子育て支援センター、こども広場、保育園など子育て世代向けの施設が整っていることから子育て世代をターゲットとした民間事業者による住環境整備を支援し、まちなか居住の推進を図っていく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
中心市街地のにぎわいの促進	中心市街地内の歩行者・自転車通行量(人/日)	4,926	5,560	5,702	H26.3	<u>a</u>
街なか居住の推進	中心市街地商業エリアの人口密度(人/km ²)	3,424	4,240	3,285	H26.4	<u>c</u>
新たな産業や文化の創出	中心市街地内の事業所数	657	657	665	H25.12	<u>a</u>

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

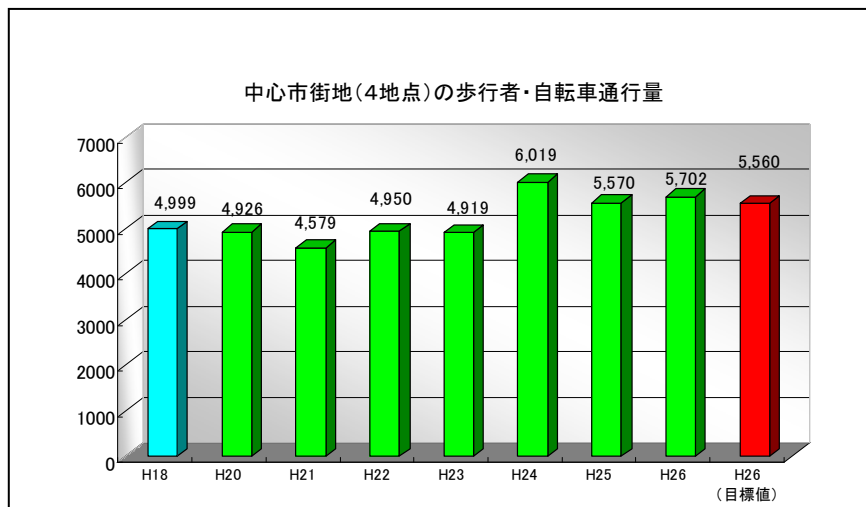
- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)
- a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)
- B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)
- c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「中心市街地のにぎわいの促進」

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P50～P51 参照

1. 調査結果の推移



年	(人/日)
H20	4,926 (基準年値)
H21	4,579
H22	4,950
H23	4,919
H24	6,019
H25	5,570
H26	5,702
	5,560 (目標)

※調査方法；歩行者・自転車通行量調査

※調査月；平成26年3月の平日（7時～19時）

※調査主体；塩尻市

※調査対象；歩行者・自転車、平日4地点（ウイングロード前交差点、駅前交差点、県道塩尻停車場線交差点、市民交流センター西側交差点）

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 高次都市施設事業（市民交流センター）[地域交流センター]（塩尻市）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 H20～H21
事業開始・完了時期	H20～H21【済】
事業概要	大門中央通り地区市街地再開発事業の保留床を「市民交流センター」として取得し整備する。中心市街地活性化の起爆剤・シンボルとして、図書館、子育て支援センター、市民サロン等の施設・機能を有する。
目標値・最新値	目標値 517 人・最新値 737 人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	都市機能が集約され交通の利便性の高い地区に整備し、午後10時まで開館していることもあり、従来の公共施設利用者に加えて若年層の利用者が大幅に増加したため。
計画終了後の状況（事業効果）	「知恵の交流を通じた人づくりの場」と位置づけ市民活動の場、ビジネス支援の場、子育て支援の場など多様な世代の交流の場として機能している。
高次都市施設事業の今後について	実施済み

②. 塩尻駅南地区市街地再開発事業（塩尻市、塩尻駅南地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等) H20～H24
事業開始・完了時期	H20～H24【済】
事業概要	市街地再開発事業を行い、玄関口としての都市機能強化を図る。駅前サービス施設、特別養護老人ホーム(150床)、保育所、地域交流スペース、集合住宅(34戸)等を整備する。
目標値・最新値	目標値 157 人・最新値 240 人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	当初計画していたホテルは誘致できなかったものの、計画変更の上、複合施設を整備した。商業施設利用客だけでなく福祉系の事業所への就業者も多く、目的達成へ寄与している。
計画終了後の状況（事業効果）	商業系施設は地域ブランドの紹介の場として機能し、福祉系複合施設は従来中心市街地で提供できていなかったサービスを新たに提供するとともに、雇用を創出する場として機能している。
塩尻駅南地区市街地再開発事業の今後について	実施済み

③. 塩尻駅前観光交流センター整備事業（塩尻市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画) H21～H22
事業開始・完了時期	H21～H22【済】
事業概要	塩尻に訪れた観光客等への観光案内及び特産品等の販売促進を行うとともに、観光客と市民等の交流の場として整備する。利用者の滞在時間を増やし、中心市街地に新たな交流とにぎわいの創出を図る。
目標値・最新値	目標値 30 人・最新値 57 人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	隣接する塩尻駅前広場で観光バス待機所を改修した後、観光バス利用台数が増加したこと、観光交流センターもバス事業者等へのPR活動を行ったことが利用者の増加に寄与している。
計画終了後の状況（事業効果）	隣接する塩尻駅前公園を利用しながら地域ブランドを活かしたイベントを実施し集客の相乗効果を目指している。
塩尻駅前観光交流センター事業の今後について	実施済み

④. 大門八番町中心市街地共同住宅供給事業（個人）

支援措置名及び支援期間	中心市街地共同住宅供給事業 H23～H24
-------------	--------------------------

事業開始・完了時期	H23～H24【未】
事業概要	空地となっている土地を活用して、高齢者にも対応した一般賃貸共同住宅を整備する。
目標値・最新値	目標値 104 人・最新値 0 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	計画期間中の経済情勢及び事業化に向けた権利者の合意形成に至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	—
大門八番町中心市街地共同住宅供給事業の今後について	権利者の意向を確認しながら事業化に向けて可能な支援を行っている。

⑤. 大門銀座通り地区優良建築物等整備事業（塩尻市、民間事業者）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業) H20～H23
事業開始・完了時期	H20～H23【済】
事業概要	空き店舗がまとまっている区域において優良建築物等整備事業を実施し都市機能の強化と都市景観の向上を図る。 1階に商業施設及び介護サービス施設を整備し、2階以上にサービス付高齢者向け住宅(39戸)、集合住宅(5戸)を整備する。
目標値・最新値	目標値 52 人・最新値 44 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	当初計画していた分譲住宅は誘致できなかったものの、計画変更の上、サービス付高齢者向け住宅及び集合住宅を整備した。主に単身者向けの施設構成であることから目標値の達成には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	商業・医療施設が集約している中心市街地に立地していることから歩いて暮らせる住環境の確保に寄与している。
大門銀座通り地区優良建築物等整備事業の今後について	実施済み

3. 今後について

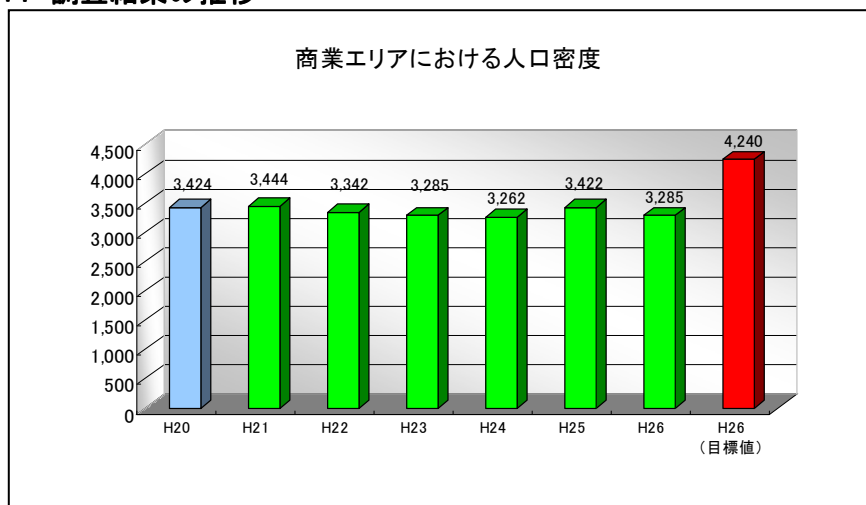
今後、電線共同溝事業、サイン整備事業の実施により歩きやすい道・わかりやすい道の実現により回遊性の向上を目指す。拠点施設への集客を周辺の商店に波及させるには個店の魅力向上が必要であることから、まちづくり会社・商工会議所等により既存事業者への支援や新たなプレイヤーの育成を図っていく。商業面での魅力向上により引き続き歩行者・自転車通行量の増加を図っていく。

個別目標

目標「街なか居住の推進」

「中心市街地商業エリアの人口密度」※目標設定の考え方基本計画 P54～P55 参照

1. 調査結果の推移



年	(人/日)
H20	3,424 (基準年値)
H21	3,444
H22	3,342
H23	3,285
H24	3,262
H25	3,422
H26	3,285
	4,240 (目標)

※調査方法；4月1日現在の住民基本台帳人口(中心市街地商業エリア内)を地区面積で除する。

※調査月；平成26年4月

※調査主体；塩尻市

※調査対象；中心市街地商業エリア内の居住人口

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 大門八番町中心市街地共同住宅供給事業（個人）

支援措置名及び支援期間	中心市街地共同住宅供給事業 H23～H24
事業開始・完了時期	H23～H24【未】
事業概要	現在、空地となっている土地を活用して、高齢者にも対応した一般賃貸共同住宅を整備する。
目標値・最新値	目標値 104 人・最新値 0 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	計画期間中の経済情勢及び事業化に向けた権利者の合意形成に至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	—
大門八番町中心市街地共同住宅供給事業の今後について	権利者の意向を確認しながら事業化に向けて可能な支援を行っていく。

②. 塩尻駅南地区市街地再開発事業（塩尻市、塩尻駅南地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等) H20～H24
事業開始・完了時期	H20～H24【済】
事業概要	市街地再開発事業を行い、玄関口としての都市機能強化を図る。駅前サービス施設、特別養護老人ホーム(150床)、保育所、地域交流スペース、集合住宅(34戸)等を整備する。
目標値・最新値	目標値 156 人・最新値 198 人
達成状況	達成

達成した（出来なかった）理由	当初計画していたホテルは誘致できなかったものの、計画変更の上、複合施設を整備した。商業施設利用客だけでなく福祉系の事業所への就業者も多く、目的達成へ寄与している。
計画終了後の状況（事業効果）	商業系施設は地域ブランドの紹介の場として機能し、福祉系複合施設は従来中心市街地で提供できていなかったサービスを新たに提供するとともに、新規雇用を創出する場として機能している。
塩尻駅南地区市街地再開発事業の今後について	実施済み

③. 大門銀座通り地区優良建築物等整備事業（塩尻市、民間事業者）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業） H20～H23
事業開始・完了時期	H20～H23【済】
事業概要	空き店舗がまとまっている区域を優良建築物等整備事業により都市機能の強化と都市景観の向上を図る。 1階に商業施設及び介護サービス施設を整備し、2階以上にサービス付高齢者向け住宅（39戸）、集合住宅（5戸）を整備する。
目標値・最新値	目標値 52 人・最新値 44 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	当初計画していた分譲住宅は誘致できなかったものの、計画変更の上、サービス付高齢者向け住宅を整備した。主に単身者向けの施設構成であることから目標値の達成には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	介護保険サービス提供事業者が施設運営を行っているおりニーズに応じた介護サービスが提供できる体制となっていることから入居者の安心に結びついている。
大門銀座通り地区優良建築物等整備事業の今後について	実施済み

3. 今後について

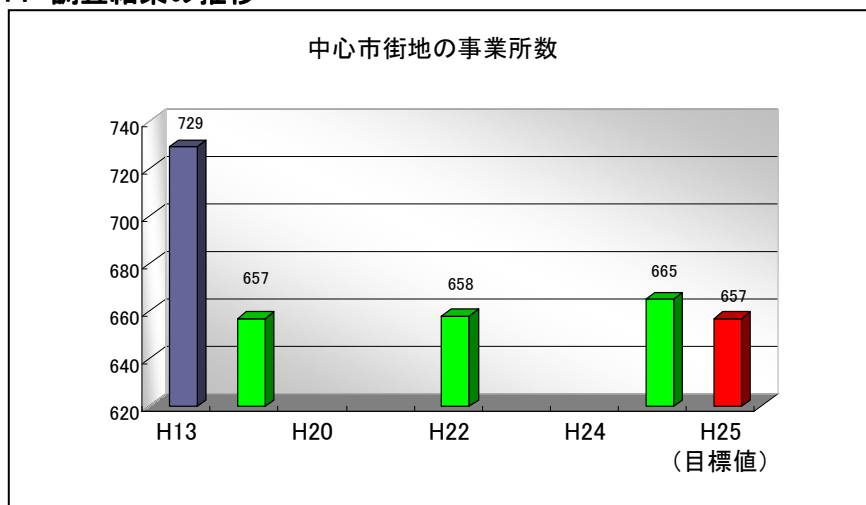
子育て世代向けの施設整備が進んだことから中心市街地内に点在する種地を地権者の意向を確認しながら子育て世代向けをターゲットとした共同住宅整備の支援を行うとともに、狭あい道路の改修を通じて従来は活用困難であった土地を良好な住宅地としての供給を支援する。

個別目標

目標「新たな産業や文化の創出」

「中心市街地内の事業所数」※目標設定の考え方基本計画 P57 参照

1. 調査結果の推移



年	(事業所)
H18	657 (基準年値)
H19	
H20	
H21	
H22	658
H23	
H24	
H25	665 657 (目標)

※調査方法；現地確認による調査

※調査月；平成25年12月

※調査主体；塩尻市

※調査対象；経済センサスで定義される事業所（官公署を含む）

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 市街地再開発事業（大門中央通り地区）（塩尻市）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 H19～H21
事業開始・完了時期	H19～H21【済】
事業概要	市街地再開発事業により実施する本事業は中心市街地活性化のリーディングプロジェクトであり、図書館を中心とする市民交流センターの整備とともに商業施設、商工会議所、市商工まちづくり部門が入居する。
目標値・最新値	目標値7事業所・最新値 11 事業所
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	当初想定していた入居予定者に加え、民間企業・NPO法人等が入居したため。
計画終了後の状況（事業効果）	オープン後約4年が経過した現在も再開発ビル利用者は想定を上回るレベルで推移しており、一部で入居テナントの入れ替えはあるものの入居率100%を維持している。
市街地再開発事業（大門中央通り地区）の今後について	実施済み

②. 空きビルコンバージョン地域再生事業（古民家再生整備事業）（まちづくり会社）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	H20～H25【実施中】
事業概要	明治期に建築された古民家の空き店舗を本商店街に不足している飲食店やコミュニティスペースとして整備し、商業機能の強化とにぎわいの創出をめざす。

目標値・最新値	目標値 3 事業所・最新値 0 事業所
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	従前権利者の移転先の交渉、入居テナントとの交渉に期間を要し計画期間内に事業着手したが工事完成に至らなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	—
空きビルコンバージョン地域再生事業の今後について	入居店舗が決定し平成26年1月に改修工事に着手した。7月下旬に飲食店(1階)及びエステ店舗(2階)がオープン予定である。

③. 空きビルコンバージョン地域再生事業(空きビル再整備事業)(まちづくり会社)

支援措置名及び支援期間	塩尻市補助金
事業開始・完了時期	H20～H24【済】
事業概要	空きビルを再整備し、中心市街地の未利用な資源を貸店舗、貸事務所として有効に活用する空ビルコンバージョン事業として再生整備する。
目標値・最新値	目標値 3 事業所・最新値 2 事業所
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	当初計画していた2棟のうち1棟については事業実施したが、残りの1棟については未実施であるため。
計画終了後の状況(事業効果)	本事業によって2店舗が改修されたが、経営者の交代により主に夜の営業時間帯の業態となったため、昼の歩行者・自転車通行量に寄与しない実態となっている。
空きビルコンバージョン地域再生事業の今後について	事業未実施の建物所有者から建物活用方法についてまちづくり会社へ相談が寄せられている。事業実施に向けて関係者との調整を行っている。

④. 塩尻駅南地区市街地再開発事業(塩尻市、塩尻駅南地区市街地再開発組合)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等) H20～H24
事業開始・完了時期	H20～H24【済】
事業概要	市街地再開発事業を行い、玄関口としての都市機能強化を図る。駅前サービス施設、特別養護老人ホーム(150床)、保育所、地域交流スペース、集合住宅(34戸)等を整備する。
目標値・最新値	目標値 7 事業所・最新値 9 事業所
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	当初計画していたホテルは誘致できなかったものの、計画変更の上、複合施設を整備した。商業施設だけでなく複数の福祉系事業所(高齢者向け及び子育て世代向け)を整備したことから事業所数の維持に寄与した。
計画終了後の状況(事業効果)	商業系施設は地域ブランドの紹介の場として機能し、福祉系複合施設は従来中心市街地で提供できていなかったサービスを新たに提供するとともに、雇用を創出する場として機能している。
塩尻駅南地区市街地再開発事業の今後について	実施済み

⑤. 大門銀座通り地区優良建築物等整備事業(塩尻市、民間事業者)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業) H20～H23
-------------	------------------------------------

事業開始・完了時期	H20～H23【済】
事業概要	空き店舗がまとまっている区域を優良建築物等整備事業により都市機能の強化と都市景観の向上を図る。 1階に商業施設及び介護サービス施設を整備し、2階以上にサービス付高齢者向け住宅(39戸)、集合住宅(5戸)を整備する。
目標値・最新値	目標値 1 事業所・最新値 6 事業所
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	当初計画していた分譲住宅は誘致できなかったものの、計画変更の上、介護保険サービス事業者及びサービス付高齢者向け住宅を誘致し事業所数の増加に寄与した。
計画終了後の状況(事業効果)	介護保険サービス提供事業者は入居者だけでなく地域住民に介護保険サービスを提供していることから地域住民の福祉サービスの向上に寄与している。
大門銀座通り地区優良建築物等整備事業の今後について	実施済み

⑥. 塩尻駅前観光交流センター整備事業(塩尻市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画) H21～H22
事業開始・完了時期	H21～H22【済】
事業概要	塩尻に訪れた観光客等への観光案内及び特産品等の販売促進を行うとともに、観光客と市民等の交流の場として整備する。利用者の滞在時間を増やし、中心市街地に新たな交流とにぎわいの創出を図る。
目標値・最新値	目標値3事業所・最新値3事業所
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	隣接する塩尻駅前広場で観光バス待機所を改修した後、観光バス利用台数が増加したこと、観光交流センターもバス事業者等へのPR活動を行ったことが利用者の増加に寄与している。
計画終了後の状況(事業効果)	塩尻駅に隣接して地域ブランドを紹介・販売する事業所が立地することで塩尻駅周辺の来街者の利便性の向上に寄与している。
塩尻駅前観光交流センター事業の今後について	実施済み

3. 今後について

まちづくり会社によるランドオーナー会議の実践により、まちづくり会社と地権者との関係性を構築し、空き店舗への店舗導入や土地を流動化させることで新たなプレイヤーの活動の場を提供する。新たなプレイヤーの参入にあたっては商工会議所による新規創業支援、資金支援(空き店舗改修補助金・家賃補助)により参入がしやすい環境整備を行う。